



## WSIS+20ハイレベルイベント及び AI for Goodグローバルサミットの結果概要

総務省 国際戦略局 国際戦略課 (執筆当時) あんざわ とおる 安澤 徹

総務省 国際戦略局 国際戦略課 (執筆当時) つじ ゆういち 辻 悠一

総務省 国際戦略局 国際戦略課 (執筆当時) うめだ えりな 梅田 絵理奈

### 1. 概要

WSIS (World Summit on the Information Society: 世界情報社会サミット) フォーラムは、2003年及び2005年に策定したWSISアクションラインの進捗報告・情報交換等を行うことを目的として、ITU (国際電気通信連合) がUNESCO (国連教育科学文化機関)、UNCTAD (国連貿易開発会議)、UNDP (国連開発計画) との共催により、2009年から毎年開催しているフォーラムである。このフォーラムには各国政府・国連機関のみならず、民間企業や市民団体など、すべてのステークホルダーが参加可能となっている。本年のWSISフォーラムは「WSIS+20ハイレベルイベント」と称して、2024年5月27日 (月) から31日 (金) の日程で開催された。160か国から500人を超えるハイレベル参加者が、約200のセッションに参加した。

また、今般、ITUとスイス政府の共催により2024年5月29日 (水) から31日 (金) の日程でAI for Goodグローバル

サミットが並行して開催された。AI for Goodは、ITUが他の国際機関との協力の下、推進する国連のプラットフォームであり、AIの開発者及び利用者が学習・議論・連携し、SDGsを前進させるための実用的なAIソリューションを特定することを目的として、尾上氏が率いるITU電気通信標準化局 (TSB) が主導している活動であり、グローバルサミットはAI関連企業、政府、国際機関等が集まり、セッションやAI技術の展示などが行われる年1回のフォーラムである。WSIS+20ハイレベルイベントと併せ非常に多数の参加者が来訪 (現地約6,000人、リモート約2,000人) し、入場制限が発生するなど非常に盛況であった。日本からは吉田 前・総務審議官、安澤 前・国際交渉専門官等が参加した。

これらの2イベントにおいて、特にハイレベルの重要なセッションに日本から参加し議論に貢献したところ、概要を以下に報告する。



■ WSIS リーダーズトークXに参加する吉田 前・総務審議官



## 2. WSIS+20ハイレベルイベントの結果

### 2.1 閣僚級ラウンドテーブル

ハイレベルイベント2日目となる2024年5月28日に、各国政府の閣僚級レベルのみが参加できるクローズドなラウンドテーブルが開催された。約40か国の情報通信主幹庁の大臣、副大臣級に加え、ITU事務総局長、次長、TSB局長、BDT局長等が参加。参加者が、3つのテーマ「WSIS：グローバルデジタルガバナンスプロセスの実践（WSISの20年の成果と現状）」「WSISプロセス：現在のトレンドと新興技術への対応」「WSIS Beyond 2025：情報社会の未来を形作る」のブレイクアウトルームに分かれて、意見交換を行い、最後にプレナリーセッションで各ブレイクアウトルームの総括が行われた。我が国からは吉田 前・総務審議官がWSISプロセスの重要性と関連する我が国の取り組みを紹介するとともに、AIにおけるITUが果たせる役割についてもインプットした。

### 2.2 リーダーズトークX

同5月28日、「デジタルインクルージョンを拡大するための国際協力の革新」と題するセッションが開催された。吉田前・総務審議官がパネリストとして登壇し、尾上TSB局長が推進する「インダストリーエンゲージメント」をはじめとしたITU標準化活動への産業界の関与の重要性を強調するとともに、ITUの気候変動に関する活動である「グリーンデジタルアクション」を日本が支援することを表明した。

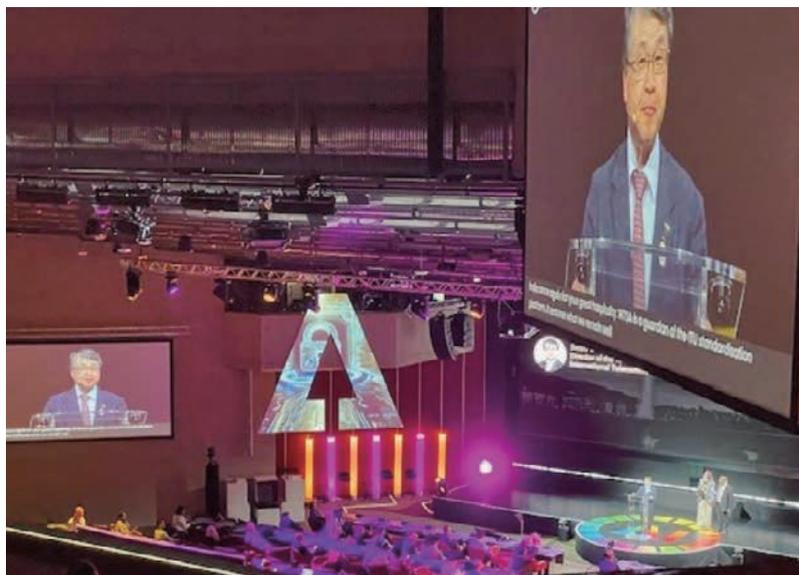
## 3. WSISにおける日本のスポンサーシップ

我が国は毎年のWSISフォーラムにスポンサーシップを提供しており、WSIS+20ハイレベルイベント期間中に日本主催のコーヒープレイクを開催した。吉田 前・総務審議官より挨拶の後、尾上TSB局長より日本の貢献への感謝が述べられた。また、ハイレベルイベント初日の晩に、スイス政府及びITUによる公式レセプションにおいて、プラチナスポンサーであるUAE、ゴールドプラススポンサーであるサウジアラビアに加え、「Partner for Specific Activities」カテゴリでのスポンサーとして我が国にも、ボグダン=マーティンITU事務総局長より表彰状が授与された。

## 4. AI for Goodグローバルサミットの結果

### 4.1 AIガバナンスデー モーニングセッション

サミットのDay 0（AIガバナンスデー）に、政府（大臣級、規制庁長官等）、国際機関、産業界、アカデミア、市民社会、尾上TSB局長をはじめとするITUの各選挙職等を含む約200人の参加者が、4時間にわたりAIガバナンスについて幅広くディスカッションを行うセッションが開催された。3つのテーマ「AIガバナンスはどのような状況にありどのように進化していくのか」「どのようにAIガバナンスのフレームワークを導入するのか」「インクルージョンと信頼をどのように確保するか」について、約20テーブルに分かれ個人の見解を自由に議論するブレイクアウトを行った後、各テーブルの大臣級・規制庁長官から議論結果の報告が行われた。また、同日シンガポールで開催されていたHigh-Level Advisory



■ AI for Goodグローバルサミット 尾上TSB局長のスピーチ



■ AIガバナンスデー モーニングセッションに参加する  
吉田 前・総務審議官



■ AIガバナンスデー モーニングセッションに参加する  
尾上TSB局長



■ AIガバナンスデー アフタヌーンセッションで発言する吉田 前・総務審議官

Body on Artificial Intelligence (AIハイレベル諮問委員会) からも、UNにおけるAIに関する議論がオンラインでインプットされ、グローバルなAIガバナンスに関する最新の状況を取り込んだ実質的なマルチステークホルダーディスカッションの場となり、長時間にもかかわらず活発な意見交換が行われた。我が国からは吉田 前・総務審議官が参加した。

#### 4.2 AIガバナンスデー アフタヌーンセッション

同じくサミットのDay 0 (AIガバナンスデー) に、「世界の主なAIガバナンスプロセスの現状」という題目でセッションが開催され、各国が自国の取組みの共有等をした。日本からは吉田 前・総務審議官が参加し、AIガバナンスに係る取組みとして「広島AIプロセス」を共有した。また、AIにおけるITUの役割として、「マルチステークホルダー」「標

準化」「キャパシティビルディング」の重要性を強調した。

### 5. AI for Goodグローバルサミットにおける日本のスポンサーシップ

世界各国から85以上の企業等が展示を実施する中、日本から「Gold Sponsor」として資金を提供し、アフリカ地域のスタートアップ企業3社の出展を支援。参加者の地域多様性、途上国及び産業界の参加の拡大に貢献した。

### 6. その他

会合の概要は下記URLのとおり。WSISについては会合結果文書をダウンロード可能。

【WSIS】 <https://www.itu.int/net4/wsis/forum/2024/Home/Outcomes>

【AI for Good】 <https://aiforgood.itu.int/summit24/>